ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E112J005	絵画Ⅰ (Painting Ⅰ)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	1	2	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫	前期	月5	日本語		単独

担当教員	氏名　石田　翔太 E-mail　ishida-syouta@oita-u.ac.jp　内線
授業の概要	本授業では、絵画表現の基礎の習得と美的感性の育成を重視し、個々の表現を深めていくことを目的とします。鉛筆やコンテ、絵具といった多様な画材に触れ、線や面、色彩といった絵画表現の基本的要素を段階的に学習していきます。授業は大きく分けて素描（デッサン）、色彩表現、人体描写、風景表現の四つのテーマと鑑賞を組み合わせて進行し、それぞれの段階で実技と講義を交えながら学習を深めていきます。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	絵画表現に関する道具、絵具の基礎的な使い方や技法について説明し、実演することができる。		○						
目標2	色彩や造形、立体感、遠近感、質感など、絵画表現と描画に関する基本的な考え方を理解し、表現することができる。				○				
目標3	観察に関する技能を習得し、対象から感じ取ったことをもとに自ら主題を生成し、表現に応用することができる。						○		
目標4	作品制作と鑑賞を通して、自分が感じたことや考えたことを的確に言葉で説明することができる。			○					
目標5	作品鑑賞を通して、受講者相互の多様な描画表現のあり方や思想について尊重し、意見交換など協力することができる。					○			
目標6									
目標7									
目標8									
目標9									
目標10									
		各DPへの関連度（計10）	3	1	3	1	2		

授業の内容

1	オリエンテーション、「樹木の素描」①：鉛筆と練りゴムの使い方、線と形、感受性と言葉。【導入講義】今日における絵画の位置づけ
2	「樹木の素描」②：ドローイング基礎、質感と量感、後天的な感性の育成、コンテ・パステルの使い方。【導入講義】観察のための姿勢
3	「樹木の素描」③：描画のバランス、個性を掴む、感性の交感と鑑賞会。【導入講義】鑑賞の基本
4	色彩表現基礎「自然物の素描」①：画材の知識、感覚の表現。【導入講義】絵画に関する材料について
5	色彩表現基礎「自然物の素描」②：水彩絵具の使用法、水の操作、パレットや筆の使い方
6	色彩表現基礎「自然物の素描」③：明度、彩度、色相の操作、混色、色を重ねる、面積比、感性の交換と鑑賞会
7	鉛筆によるデッサン「卓上静物」①：幾何形体の描法、パース、構成。【導入講義】デッサンと静物画の歴史
8	鉛筆によるデッサン「卓上静物」②：立体感、質感、タッチ、量感、計測技術
9	鉛筆によるデッサン「卓上静物」③：光と影の表現、空間表現、絵画的な見方、鑑賞会
10	人体描写基礎①：（クロッキー）人体の構造、比率、視点。【導入講義】見ることと見られること
11	人体描写基礎②：骨格と筋肉、力、重力、鑑賞会
12	風景画表現基礎①：ラフスケッチ、幾何遠近法、パース。【導入講義】奥行き表現の文化と歴史
13	風景画表現基礎②：空気遠近法、色彩遠近法、対象の捉え方
14	風景画表現基礎③：空気感、発色、独創性
15	風景画表現基礎④：風景表現の仕上げ、バランス、表現の指向性、鑑賞会。【導入講義】絵画表現の応用に向けて

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	受講者は制作時に感じたこと、考えたことをメモにして貯め、制作のナラティブを形成する。実技課題ごとに行う作品鑑賞会は作品のプレゼンテーションと意見交流を行う。さらに、受講者の制作メモを活用し、受講者間で相互作用的に感性の育成を促進させる。		制作メモを活用した「感性の交換」により、知識と技術だけでなく、美的感性の育成にも取り組む。
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造	○			

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	各課題で作品のプランニングを行う。（7h）様々な絵画作品や素描、絵画技法などについて調べる。課題に関する描画材料について調べ、準備する。（7h）
	事後学修	自身の作品制作に応じた技術や描画材料、異分野の知見について学習し、制作に反映させる。絵画表現に関する基本的な知識を得る。（7h）
	想定時間合計	21

教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントなどを使用する。
参考書	必要に応じてプリントの配布や参考資料を紹介する。また、以下を参考書として挙げる。 秋山聰・田中正之 監修『西洋美術史　美術出版ライブラリー 歴史編』美術出版社、2021年、ISBN9784568389081 福田隆眞・福本謹一・茂木一司 編著『美術科教育の基礎知識』建帛社、2010年、ISBN9784767921013

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実技課題作品	60%	○	○	○							
	作品制作に関するプレゼンテーション、意見発表	20%		○	○	○	○					
	問題意識、目的意識	20%	○	○	○	○	○					
	すべての制作課題の完成、提出を単位取得の条件とする。											

注意事項	授業で使用する鉛筆や絵具などの描画材は受講者が準備する（詳細は第1回で説明する）。画用紙など、授業で使用する一部の画材材料費を集める（目安として1,000円程度）。 絵画制作に取り組むため、衣服に絵具などが付着することがある。受講者は各自その点に対策すること。
備考	
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	中学校、高等学校教職員
実務経験をいかした教育内容	実際の教育現場で想定される問題や課題、教授法の事例を紹介して教職意識を高めると共に、その適切な対応法を身につける。